

151号 日本比較文学会 東京支部

Newsletter

Table of Contents

1. 10月・12月例会案内
2. 例会要旨等
3. 例会会場
4. 東京支部短信

10月例会

日時:10月11日(土)14時より
(対面およびオンラインのハイフレックス方式開催、Zoom URLは後日配信)

会場:東京大学駒場キャンパス18号館4階
コラボレーションルーム1

講師:清泉女子大学(元教授) 和田桂子

題目:魔都はどのように魔都だったか
——英語圏の上海イメージ——

司会:田漢基金会(研究員) 林茜茜

12月例会

日時:12月20日(土)14時より
(対面方式のみでの開催)

会場:東京大学駒場キャンパス18号館4階
コラボレーションルーム1

講師:東洋大学(客員研究員) 千森幹子

題目:二〇世紀前半の英国図像にみる擬人化
描写

司会:東京大学 寺田寅彦

役員連絡会開催のお知らせ

2025年10月例会終了後、対面およびオンラインのハイフレックス方式で開催します。
(役員連絡会の構成員は支部長、事務局長、会計を含む事務局委員、各種委員会委員長です。委員会の委員、幹事は含まれませんが、陪席を歓迎します)

*ZoomミーティングのURLについては、開催1週間前にお知らせします。

懇親会開催のお知らせ

12月例会終了後、懇親会を予定しています。後日、出席登録アンケートをメール配信予定です。皆さまふるってご参加ください。

10月例会発表要旨

魔都はどうのように魔都だったか ——英語圏の上海イメージ——

清泉女子大学（元教授）和田桂子

南京条約が1842年に締結されたあと、上海には1845年にイギリス租界が形成され、1848年にはアメリカ租界が、1849年にはフランス租界が作られた。やがて1863年にはイギリス租界とアメリカ租界を合併した共同租界が形成された。この共同租界には、イギリス、アメリカのほか日本、ロシア、ポルトガルなどさまざまな国籍の人々が居住するようになった。上海工部局の資料によると、1930年の段階でイギリス人は約6000人、アメリカ人は約1600人、外国人全部を合わせると約36000人であったということだが、上海全体の人口が300万人を超えていたことを考えると、その数は少ないといえる。にもかかわらず上海は明らかにイギリスの権力下にあった。自治行政機関である工部局が創設されたのは1854年だが、当初その参事はイギリス人、アメリカ人に限られ、中国人には選挙権がなかった。この異様な行政下で、上海は危険で魅力的なイメージを持つことになる。村松梢風がいみじくも「魔都」と呼んだこの街は、英語圏の人々にとってどんなふうに「魔都」だったのだろうか。

本発表では、サマセット・モームの小説やオルダス・ハクスリーの旅行記で上海がどのように描かれたか、J.G.バラードの『太陽の帝国』やカズオ・イシグロの『わたしたちが孤児だったころ』の中で上海在住のイギリス人がどのような体験をしたか、などを検証しながら、英語圏の上海イメージについて考えていきたい。

12月例会発表要旨

二〇世紀前半の英国図像にみる擬人化描写

東洋大学（客員研究員）千森幹子

本発表では、二〇世紀前半、英国で活躍したイラストレーター、カイ・ニールセン(Kay Nielsen, 1886-1957)、ハリー・クラーク(Harry Clarke, 1889-1931)、ジェニー・ハーバー(Jennie Harbour, 1893-1959)、W.H.ロビンソン(William Heath Robinson, 1872-1944)の代表的な擬人化描写に焦点をあて、その足跡を辿る。その独創的な作品解釈と擬人化描写を検証することにより、現代に通じる、多岐にわたる擬人化技法の軌跡の一端を概観したいと考える。

デンマークに生まれたニールセンは、英国の挿絵の黄金時代に少し遅れたために、華麗な線描やオリエンタリズムの影響を独自に発展させたその技量を、豪華本に生かすことができなかった。全盛期にその才能を十全に発揮できなかったことが惜しまれるが、彼の擬人化描写には、先の世代のアーサー・ラッカム(Arthur Rackham, 1867-1937)等とはまた異なった自然への共感がみられる。さらに、アイルランドで生まれたステンドグラス作家クラークは、対象を擬人化するだけでなく、人間などを擬動物化・デザイン化することによって新境地を開いた。ハーバーは、現代のアニメやマンガ、あるいはグラフィックデザインにも通じる、子ども目線に立った作品を生み出した。そして、W.H.ロビンソンは、現代社会の多くの分野にみられる擬人化表現の先駆者であった。動物や植物の擬人化のみならず、人間の動物化や機械化を試みたロビンソンは、現代のエコロジー概念への先駆的な啓示となるような、優れた作品を数多く世に問い、未来社会に鋭い警告を与えたのである。

10・12月例会会場

10・12月例会は東京大学 駒場Iキャンパス18号館4階 コラボレーションルーム1
で開催されます(下図参照)。

キャンパス内については、当日の掲示にしたがってお進みください。

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

◆京王井の頭線「駒場東大前」駅下車



東京支部短信

電子版『日本比較文学会東京支部研究報告』への投稿について

電子版『日本比較文学会東京支部研究報告』は、毎年一回、3月末日に発行されます。研究論文投稿の有資格者は、本学会員で、前年および前々年に開催された東京支部例会または東京支部大会において研究発表や講演等を行なった会員です。投稿者は、支部例会または支部大会における各自の発表をもとに、投稿論文の原稿を作成してください。但し、2025年度についても前年に続き、支部例会・支部大会で研究発表や講演等の機会を得られなかった場合も投稿可とします。なお、多くの大学、研究機関では電子的な方法で発表された論文についても、正規の研究業績として認められています。投稿論文の提出期間は11月1日から11月30日まで、送付先は下記の通りです。ふるって投稿ください。お待ちしております。

日本比較文学会東京支部 編集委員会委員長 鈴木美穂
hikaku.tokyo.henshu@gmail.com

詳しい投稿規定および執筆要領、投稿用のテンプレートは東京支部ホームページに掲載されていますので、どうぞご覧ください。ご質問がある方は支部事務局に電子メールでお問い合わせください。

月例会発表者募集

支部月例会の発表者を募集しています。

申し込みは支部事務局 comp.lit.tokyo@gmail.com に氏名、所属、題目、連絡先(メールアドレス、電話)を明記したうえで、600～800字の要旨を添えて電子メールで送信、または郵送でお願いいたします。支部役員に託されても結構です。発表時間は45分(質疑応答を除く)です。

東京支部事務局より「お知らせ」の配信について

東京支部では支部会員のみなさまにメールマガジンの「お知らせ」をお届けしています。原則として毎月1日発行で、例会や支部大会などの情報を掲載しています。これまでお手元に届いていない方は、日本比較文学会東京支部の支部会員のページの「お知らせ」のウェブサイト<https://www.hikakutokyo.com/mm>のフォームにご記入のうえ「配信希望」をクリックして下さい。メールアドレス変更の場合も、お手数ですが、新アドレスにて再登録をお願いいたします。

日本比較文学会 東京支部
ニューズレター
151号

発行人：寺田寅彦

編集委員会（編集担当）

委員長：鈴木美穂

委員：岩下弘史 亀井伸治 越野剛
中垣恒太郎 廣瀬絵美

事務局

事務局長：庄子ひとみ

会計担当委員：土田久美子

委員：小泉泉 芳賀理彦 畑中健二
蒔田裕美

JCLA

日本比較文学会
東京支部事務局

〒270-1695

千葉県印西市平賀学園台1-1
順天堂大学さくらキャンパス
庄子ひとみ研究室

E-mail:

comp.lit.tokyo@gmail.com